

宿毛支所管内より



### 「おおきみ」について教えて!

平田小学校3年生の皆さんと野口部長

宿毛市立平田小学校の3年生は11月29日、ふるさと総合学習の一環で、同管内でイチゴの「おおきみ」を栽培する、中村支所おおきみ部会の野口典久部会長のハウスを訪れました。子どもたちは実際に生育中の株を間近で見ると観察。「水のあげ方に工夫はありますか」や、「おおきみを育てる時に大変なことは何ですか」、「月にどれくらい収穫できますか」など質問し、野口部長が分かりやすく説明しました。子どもたちは一生懸命メモを取り、「おおきみ」について学び、「外国でも人気のあるいちごが、平田（地元）にあってすごい！また来たいです」と感想を話しました。

谷崎指導員は「初めて見聞きした方もいたと思うが、おおきみについて少しでも知ってもらえた。興味を持ち学習の場が持て良かった」と話しました。

大正地区管内より



### 郷土料理教室で巻き寿司作り 皿鉢料理作りを学ぶ

女性部幡多地区大正支部

女性部幡多地区大正支部は12月2日、部員を対象に郷土料理教室を開きました。部員9人が参加。大皿に盛るお祝い用の皿鉢料理で、たけのこ寿司や海苔巻き、昆布巻き、サバ寿司やこんにやく、しいたけ、ミョウガの握り寿司などを作りました。

部員の秋田やよいさんが講師を務め、「酢飯は大きな団子にしてから詰めるがあまり握らず固くしないように。たけのこは手に持って詰めると破れやすいのでまな板の上で」などと指導。また、仕切りの役割もするハランに包丁を使って切り込みを入れ、飾り葉を作る場面では一同が注目しました。秋田さんは皿の中央を高くする中盛りでサバ寿司や巻き寿司を豪快に盛り付けました。

参加した部員は「サバ寿司とリュウキュウの巻き寿司は初めて。詰める酢飯の加減が難しかったが勉強になった」と話しました。同支部清水兄子部長は「作るうちに手のひらが測りになる。皿鉢を作る機会は少なくなったが、家でもぜひ作って」と話しました。

幡多地区

## から こんにちは 今月の〇〇 気になる人

大方支所管内より



### 女性部大方支部ミニ門松作り 地区の高齢者宅へ配布

女性部幡多地区大方支部は12月27日、ミニ門松作りを行い、部員37人が参加。部員が住むそれぞれの地区の1人暮らしの高齢者に配ろうと毎年行われ、今年は合わせて約120個手作りしました。

同管内は県内有数の花き産地で、主要品目である宿根かすみ草のほかダリアも使用。お正月らしい飾りは職員が手作りしました。オアシスに松や千両、竹など挿し水引きを飾って仕上げました。参加した部員は「自由に飾りつけができて楽しい。心待ちにしている方に喜んでもらいたい」と話しました。

中村支所管内より



### 神事に農業 引く手あまた

景平 俊之さん(52歳)

四万十市内に住む景平さんは、国家公務員を経て帰郷し農業の傍ら神主の仕事をしています。中村支所おおきみ部会の副部長で部員9人と同県産のブランドイチゴ「おおきみ」の栽培に取り組んでいます。おおきみは果実の大きさが特徴。香りも良く糖度も高いので「高級イチゴ」として確立。都市部の百貨店に並ぶ他、出荷の約6割を台湾や香港など6カ国に輸出しています。景平さんは作付面積9アールを栽培し、12月25日ごろから始まった収穫は4月いっぱいまで続きます。

また、2017年に「農事組合法人 わらびおか」を立ち上げ、地元の水稲栽培を協力し行っています。

一方、神主の仕事をはじめたのは10年前。今では24か所のお宮を担当し、祭りや年の暮れに祝詞を読み霊祭も行います。景平さんは「祝詞は本来、農に由来していると聞く。春祭りでは豊作や安全祈願。夏は水稲の無事を祈り、秋は収穫、暮れは1年のお礼を奏上する。唱えていて自然と気持ちが入ります」と微笑みます。毎日精力的に活動する景平さん。祝詞のパワーが源になっているのではないかと感じました。

# できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



各会場で商品をPRする皆さん。

## 1 幡多地区 大月町・四万十市・土佐清水市 産業祭で販わう

幡多地区管内では各地で産業祭が行われ、JAも商品をPRしようと参加しました。11月3日に3年ぶりとなった大月産業祭では、同支所職員総出で地元の松本養豚の精肉を販売。青壮年部幡多プロックの部員がポン菓子、無料配布をし、女性部幡多地区大月支部が作りたての餡餅を販売。会場を盛り上げました。

四万十市産業祭では11月27日、中村支所経済課がしまん農法米をPR。同農法米のコシヒカリとヒノヒカリを食べ比べてもらいアンケートを取り消費者の声をアンケートに調査しました。アンケートに答えた方にはもれなく、しまん農法米の2合袋をプレゼントし販売しました。この両会場で幡多地区畜産振興協議会は、消費販売促進としてひまわり乳業（株）の販売するひまわり牛乳、リップル、ひまわりコーヒーを各400本ずつ無料配布しました。幡多地域で搾乳した生乳は全てひまわり乳業（株）へ出荷しています。また、宿毛市橋上の村上ファームのワインナーも販売しました。

土佐清水市産業祭は12月3日に開催され、女性部幡多地区三崎支部が餡餅や芋餅のし餅を製造販売しました。すぐに買い求める方が列となり販売から2時間足らずで完売となりました。

## 6 中村支所 売上の一部を寄付 しまん農法米



寄付式に臨む皆さん。

中村支所は12月19日「しまん農法米」の売上げの一部を四万十川清流保全基金に寄付しました。四万十市内で行った寄付式では生産者、同市農林水産課、JAら10人が参加。同農法米はコシヒカリ、ヒノヒカリともに四万十川の環境に配慮した農法で作る同市のブランド米で、生産者も自然環境に配慮し、また寄付金型商品となっているので、消費者も四万十川流域の環境保全に参加できる仕組みとなっています。寄付金の目録を受け取った同市平正宏市長は「子どもたちの環境学習や森林整備など様々な事業に役立てて」と喜びました。

現在同支所管内の生産者13戸内、集落営農組織（組織）が約18ヘクタールを栽培しています。

## 4 地区本部 備えあり 消防訓練実施



消火訓練をする職員。

幡多地区本部と中村支所は12月20日、消防訓練を行いました。地区本部では新館での訓練は初めて。所属するはた営業経済センター、信用共済部、企画組合員課が火元確認から避難誘導、通報、初期消火、安否確認の点呼まで一連の訓練を行いました。消火訓練では地区本部所谷哲也部長が、水消火器を使って、注意点や消火器の扱い方などを実践して説明。参加者全員が行いました。また、消火訓練は地区本部のほか、同支所の信用課、共済課、JAグリーン四万十店も実施しました。

## 7 中村支所 よさこいミディトマト 目慣らし会



収穫したよさこいミディの出来具合を見る参加者の皆さん。

幡多地区よさこいミディ研究会は12月7日、中村選果場でよさこいミディの目慣らし会を開催し、生産者や幡多農業振興センター、JAなど9人が参加しました。目慣らし会では、収穫したいくつかのトマトの色や形、大きさをしながら出荷基準の確認を行い、今年度も糖度7度以上を維持し、品質を統一することを徹底しました。

令和4園芸年度は約170トンを出荷しましたが、令和5園芸年度は令和4園芸年度を上回る出荷量・販売額を見込んでいます。

## 5 大方支所 現地検討会開催 大方支所苺部会



イチゴの株を観察し資料に目を通す部員の皆さん。

大方支所苺部会は12月20日、現地検討会を行いました。部員や幡多農業振興センター、JAなど8人が参加。面積10アールで「さちのか」を栽培する橋田敏幸さんは、12月15日から出荷を始めました。「昨年より早く開花し早い出荷となった。親株が良かったこともあり花もそろっていた」と話しました。

同部会は昨年度約19トンを出荷。今年は20トンを目標にしています。また、同部会は、11月26日に大阪市で開催された「新・農業人フェスタ」にて、新規就農者呼び込みと、黒潮町と合同で出展しPRしました。

## 3 幡多地区 第3回地区・第2回支所合同運営委員会 および総代事前説明会



運営委員会に参加の皆さん。

幡多地区は令和4年度第3回地区・第2回支所合同運営委員会および総代事前説明会を、12月7日から19日にかけて10力所の会場にて行いました。

（株）JAエナジーこうちの燃料事業に関する報告や（株）コスモスアグリサポートの解散、日高育苗センターの混種における補償対応について説明しました。また、今年度の仮決算の報告も行いました。12月16日の宿毛支所運営委員会では約40人が参加。12月19日の中村支所では52人が参加しました。JA高知県としての事業運営のあり方など意見が交わされました。

## 2 大方支所 農福どちらもメリットを 幡多地域農福連携協議会



生産者から収穫の仕方などの説明を聞く参加者の皆さん。

幡多農業振興センターは11月29日、黒潮町で幡多地域農福連携協議会を開きました。管内の特別支援学校福祉施設や同町農業振興課、JAなど約20人が参加。促成キュウリ栽培の現地での代表的な作業内容を視察し、同支所集出荷場を見学しました。意見交換会では、賃金や雇用形態についてなど意見を出し合いました。「相談支援事業所すてっぷ」の松岡由美子専門員は「情報共有できて良かった。まずは利用者さん、農家さんが共に体験しないと進まない。農林水産色々な就職先が広がるような機会をたくさん投げかけてほしい」と話しました。

初心者（家庭菜園）向け

# シソ



## 栽培のポイント

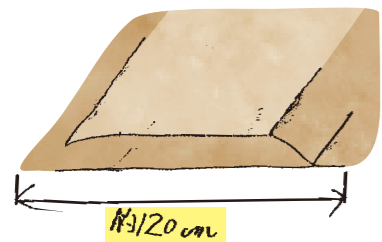
- 種子の発芽には光を必要とするので、種まきした後は板切れなどで押さえ、土に種子をめり込ませ覆土はしない。
- 休眠中の種子は発芽しないので、自家採取した種子は100日以上冷所で貯蔵してください。
- 短日になると花穂を出すので、8月頃から電灯照明を2～3時間おこなうと、秋に良い葉を収穫できます。

【電球：60～100kW 高さ：1.5m 長日処理：日没から21時まで】

【栽培暦】	●:播種 △:植付け ■:収穫											
作型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
普通栽培					●	△						■

### ① 畑の準備

- ① 早めに石灰をまいてよく耕しておく。植え付けの2週間くらい前に元肥を施す。
  - ② 1㎡当たり完熟堆肥5～6握り・油粕を75g・園芸配合（特777SP）を45g施します。
  - ③ 図のように幅120cmの畝を作り、水が溜まらないように均平にし、排水の悪い所では高畝とします。
- ★質の良い葉をたくさん取るには良い堆肥を多めに入れる。



### ② 種まき

- 種子は一晩水に浸けておき播種します。育苗箱にすじまき（条間6～7cm）とし、板切れなどで押さえ、土にめり込ませます。発芽までは新聞紙などで覆い湿度を保ってください。

### ③ 間引き・仮植

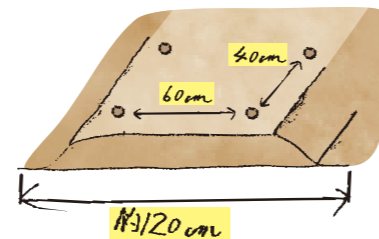
- 本葉が出始めの頃間引きをし、株間2cmくらいにします。本葉2枚の頃株間・条間各9cmくらいに仮植します。

### ④ 植付け

- 条間60cm・株間40cmくらいに植え付けます。植付け後は株の周りにたっぷりと灌水します。

### ⑤ 追肥・敷きワラ

- 草勢が15～20cm程度に伸びた頃、畝の両側にはらまき、クワで土に混ぜながら畝にあげます。追肥の量は1㎡当たりCDU555を20g程度施します。乾燥を嫌うので梅雨明け後敷きワラを行ってください。



### ⑥ 収穫

- 主枝の葉が10枚以上になった頃、下葉から順に上に向かって摘み取ります。



■ 幡多農業振興センター 市川 智啓（電話 0880-34-7070）

## 農薬の安全使用について

### 1. 農薬取締法とは

農薬を適正に使用するために、「農薬取締法」という法律があります。この法律の中で「農林水産大臣の登録を受けた農薬以外は使用してはいけない（第二十四条）」と明記されています。

農林水産大臣の登録を受けた農薬には「ラベル」が貼付されており、その「ラベル」には、使用時期・回数・使用量や対象作物、対象病害虫が指定されています。この「ラベル」に書かれているとおりに農薬を使用すれば安全に防除できますが、逆に「ラベル」に書かれていること以外で農薬を使用すると、残留基準値を超えたり（出荷の停止）、薬害によって作物が傷むことがあります。

### 2. 農薬の「ラベル」を確認しましょう

近年、農薬事故で多いのは、「思い込み」による希釈濃度違いがあります。この農薬は1,000倍で使えると思い込み、「ラベル」の確認をせず散布した後、散布記録を記入する時に2,000倍で登録されていることに気づき、残留濃度が基準値以下になるまで出荷を見合わせる事となった事例が複数見受けられます。

こうした事故は、農薬を調整する前と、使用（散布等）する前に2度、「ラベル」を確認することで、十分に防ぐことができます。農薬を使用する際には、「ラベルの確認」をしっかり行ってください。

### 3. 毒性の強い農薬の取り扱いに注意しましょう

農薬によっては、毒性が強いものもあり、特に“ハチハチ乳剤・フロアブル”は、農薬メーカーの説明によると、「学校にある25mのプールに原液を3滴入れるだけで、プール内の魚が死ぬ」ほど魚毒性が強い農薬です。

高知県内でも過去にハチハチの成分（トルフェンピラド）による魚のへい死（突然死のこと）事故が発生しています。魚のへい死事故は、農薬事故の中でも特に重大であり、今後このような事故が起こらないよう、取り扱いについて周知を図っています。

「そんな危険な農薬を使っても大丈夫なのですか？」との意見もありますが、正しく使用すれば問題ありません。“ハチハチ乳剤・フロアブル”は、魚類や甲殻類、蚕、蜂、天敵昆虫等への影響が強く、またレタス・コマツナ等の軟弱野菜やバラ科・シソ科植物、その他の多くの作物へ薬害を生じる恐れがあるため、十分注意（周辺に飛び散らない配慮）が必要です。人体への影響については、国の基準（試験等を行った結果）で安全であると判断されています（食品安全委員会農薬専門調査会評価）。

### ハチハチ乳剤・フロアブル使用時の注意点

- ・絶対に水路（及び河川）に薬液を流入させない！（事故の大半はこれが原因）
- ・散布中の液漏れ（特にホースや噴霧機の継ぎ手部分からの漏れ）が無いように気をつける。
- ・複数ほ場がある場合、薬液タンクや噴霧機等に農薬が入ってない状態で運搬する。
- ・散布後の残液や、調整用スプーン、動噴、噴霧機、タンク、薬液ボトル等の洗浄液は、ほ場内又は特定の薬液処理場所に捨てる。（農薬を土で分解させる）
- ・薬液ボトルの保管は、キャップをしっかり閉め、鍵のかかるロッカーや箱で保管する。

※購入の際には判取り帳に住所・氏名・連絡先を記入のうえ、押印が必要です。

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

# みんなのひろば

いつも楽しく読ませてもらっております。今回、四万十町の「アトリエ四万十」のカヌレの記事がありました。四万十町には週2〜3回の割合で行っておりますが「アトリエ四万十」の店は知りませんでした。今度、四万十町に行った時は、ぜひ、買って食べてみたいと思っております。

(佐賀支所管内・71歳)

以前、高知市に住んでいる時、よく三原へ帰っていました。その時妹がなにかチラシなどで見ていて「アトリエ四万十」に寄り買って食べたことを思い出しています。

(宿毛支所管内・71歳)

▼四万十町にあるアトリエ四万十の店主三浦さん、本場フランスで作っていたとのこと。ぜひ私も食べたいと思いました。

「とさのさとAGRI COLLETTO」で黒潮町缶詰製作所の友永公生さんや役場の濱口無双さんの缶詰をギフト商品にという記事を見て嬉しくなりました。

(大方支所管内・71歳)

GOTO！アグリコレットでお店の魅力や役割を特集されていて、挑戦、活気、イメージを変える、特徴を見つめ直す…等の前向きなワードにパワーをもらいました。燃料費の高騰等で大打撃を受けているにもかかわらずピンチをチャンスにかえていく人間力に勇気をいただきました。

(大方支所管内・58歳)

アグリコレットを見て、高知に行ったらあっちもこっちも寄ってみたいと思っております。

(宿毛支所管内・70歳)

「日曜市のいも天」本当においしいです。一度だけ行ったことがあります。とさのさと一度行ってみたいです。

(西土佐支所管内・62歳)

▼アグリコレットはJAファーマーズマーケット「とさのさと」の隣にあります。地域の食材を使ったレストランやテイクアウトのお店、イベント広場や地域の情報発信コーナーなど高知の魅力をギュッと凝縮した施設です。みなさん、ぜひお越しください。12月号の4ページ右下にも住所や営業時間等掲載しております。

「とさのさと アグリコレット」

高知県高知市北御座10-10

0898-80315015

営業時間 10時〜19時

(レストラン 10時〜20時)

うちんくの台所のメニュー、私にも作れそうな「キュウリのつくだ煮」作ってみようと思います。「黒もちの赤飯」も作ります。頑張って、お正月にもいいね。

(大方支所管内・71歳)

キュウリのつくだ煮は作ったことがなく、わが家の畑で作ったキュウリで作りたいです。このレシピをノートに貼っておきます。白ごはんのおかずの添え物にぴったりですね。

(宿毛支所管内・71歳)

▼12月号掲載の女性部宿毛支部のキュウリのつくだ煮は箸が止まりませんでした。皆さんぜひ試してみてください。

## 第10期女性大学はた小町あぐりコース修了

令和4年4月28日に開校した「あぐりコース」は11月17日に修了式を迎えました。受講生がそれぞれ野菜を栽培し、難しさや大変さそれ以上に生育中の愛着や楽しみ、収穫の喜びを感じていただけたと思います。受講生同士で教え合い交流も楽しかったとの感想も頂きました。最終回はみかん狩りをして楽しみました。次期生の募集については決まり次第お知らせいたします。開校の際は、皆さまぜひお問合せ下さい。



## ♡♡女性大学はた小町すてっぷあっぷコース♡♡

第4回目のステンドグラス作りは、講師に吉川理恵先生を招き12月7日に開催しました。はんだとコテと集中力を使って仕上げていきます。皆さん初めての方が多く中仕上がりが上々！「楽しかった」とのお声も聞けました。次回第5回は革細工作りです。

